

Why Bob Dylan Won the Nobel Literature Prize

眞木 祐奈

Introduction

Who is Bob Dylan and why I write about this?

Bob Dylan は 1961 年にデビューし、現在まで数々の曲を製作し、全世界を活動し続けているアーティストである。彼はその歌詞の表現や、描き方から、多くのアーティストに影響を与えている。代表曲は、'Blowing in The Wind', 'Like A Rolling Stone', などである。また、1991 年に、Lifetime Achievement の部門でグラミー賞を受賞している。(Heatley,190) *The Ultimate Encyclopedia of Rock* の中で、このように紹介されている。

His poet's way with words brought coherence, and articulation to contemporary songwriting. Now with a 30-year legacy, there's still no-one quite like him. (Heatley, 190)

Dylan の一貫性のある言葉、時代に合わせた作曲の表現の仕方は、(94 年当時で) 30 年間続いており、だれも完全な Dylan になり替わる人は未だにいないと述べている。時代背景に合わせた楽曲が数多く作られていることは事実であり、彼より後の時代のアーティストが世相に関連する歌詞を描くきっかけとなったといえる。彼の影響を受けたアーティストは、今回取り上げる、Bruce Springsteen, Bon Jovi, 桑田佳祐のみならず、Jimmy Hendrix や、Thin Lizzy らと数多い。また、彼自身について、映画「No Direction Home」(2005) が Martin Scorsese によって描かれた。

私がこのテーマについて書こうと思った理由は、Dylan がノーベル文学賞を受賞したというニュースを見て、どうしてノーベル賞を取ったのか興味を持ったからである。また、彼が後の時代のアーティストに、どのような影響を与えたのか、その要因を探求したいと考えた。

Chapter 1 では、Dylan がノーベル文学賞をとった理由を中心に、ノーベル賞そのものの基準や、彼自身が受賞に対してどのように考えていたのか、そして世間の反応はどういうものだったのかを述べていきたい。

Chapter 2 では、Dylan の歌詞の分析を、先行研究の論文から、そして、筆者自身の観点からしていく。筆者の分析については、ディランの数々の楽曲のうち、Like A Rolling Stone について取り上げたいと考えている。Masur の論文によると、この楽曲が多くのアーティストの楽曲を生み出したとされている。実際に曲を聴いて歌詞を比較しながらこの点を分析していきたい。

Chapter 3 では、Dylan の影響を受けたアーティストについて、Bruce Springsteen, Bon Jovi, そして桑田圭祐の3つのアーティストに焦点を置き、それぞれ紹介しながら論じていきたい。彼らの活躍している国は異なるが、共に1970、1980年代から現在まで楽曲を制作し、活動し続けているアーティストである。それぞれのアーティストを紹介し、Dylan の影響を受けた楽曲について、歌詞、歌い方、そしてそれぞれの時代背景を含めて分析していく。

Chapter 1: Dylan の受賞することが2016年になった理由

1. What is criterion of Nobel Literature Prize?

ノーベル文学賞が表彰されるにあたっての基準は、実にあいまいで、かつ時代によって変化していた。それは公式サイトにも書かれている。

Two members of the Swedish Academy spoke strongly against accepting Nobel's legacy, for fear that the obligation would detract from the Academy's proper concerns and turn it into "a cosmopolitan tribunal of literature". They could have added that the Academy, in doldrums at the time, was ill-equipped for the sensitive task. (Nobel Prize Organization, 1999)

ノーベル賞が生まれた 1920 年代、戦争の時代となった、1930 年代から 40 年代、戦後、1970 年代、そして 1980 年代以降と、各時代で基準が異なった。しかし、基準のあいまいさは変わらず、どのように選定しているかは不明瞭である。ノーベル賞の公式サイトでは、時代によって変遷していった経緯が、以下のように書かれている。

“A lofty and sound idealism” (1901-12)

A policy of neutrality (World War I)

“The great style” (the 1920s)

“Universal interest” (the 1930s)

“The pioneers” (1946-)

Attention to unknown masters (1978-)

“The literature of the whole world” (1986-)

(Nobel Prize Organization, 1999)

それぞれ順番に、「高尚で理想的なもの」、「政治的に中立的」なもの、「文体の素晴らしさ」、「万人が興味を持つ」もの、「開拓者」、知られていない人に焦点を当てる、「世界中に広がる」もの、という意味である。それぞれの基準は各時代の背景に大きく影響されている。ノーベルが存命していた時代の 1910 年代は、まだ貴族社会の名残が残っていたことから、高尚なもの、という基準が生み出されたと考えられる。第一次世界大戦の最中は、ヨーロッパの国同士が対立していたことが政治的に中立なものがよいとされた要因だろう。

その中で、ディランが受賞した今の時代の基準を考えると、それに合致するものであることに納得できる。そして、名目は「文学賞」であるが、本になるような作品だけではなく、音楽の詩も同じように「文学」の一つとして捉えていると考えられる。しかし、この基準は非常に曖昧なものである為、受賞に至った経緯が分かりづらい。

2. Why Dylan won The Nobel Prize?

・ "...for having created new poetic expressions within the great American song tradition."

先述の項目で分かる通り、受賞した理由も、「アメリカの伝統的な詩の中で、新しい形を創造する革新をもたらした。」からだとされている。あくまでも、彼が60年代に描いた詩を中心に表彰されている。彼が受賞する前の論文だが、Masurによると、彼は60年代の人だと思われがちだ、と述べている。

And yet, for all the appreciation of a lifetime of work, it was what Dylan sang, said, did, and represented for a few years in the 1960s that continues to draw the public's attention and ignite the imagination of new generations of listeners. In recent years, with the publication of Bob Dylans Chronicles: Volume One (2004) , the screening of Martin Scorsese s No Direction Home (2005) , and the release of Dylans concerts at Philharmonic Hall in 1964 and Manchester in 1966, this interest has reached a fever pitch. The Experience Music project created a traveling exhibition titled "Bob Dylan's American Journey, 1956- 1966" that was featured at the Rock 'n' Roll Hall of Fame in summer 2006. (Masur, 166)

Bob Dylan は、60年代だけではなく、今現在（書籍が書かれた2007年以降も）楽曲を作り続け、そして活動し続けている。彼の楽曲の詩のような描き方、そして60年代、70年代の時代背景を反映させた歌詞が評価されたと推測できる。

ただ、音楽が「文学的」なものといえるのか否かは明確にされておらず、Dylan 本人も「音楽は音楽そのものだ」と述べている。

3.What did Dylan think about this?

Dylan's way of thinking of his music

Dylan は、多くのインタビュー、記事の中で、「音楽は詩ではなく、音楽そのものを楽しむものだ」と述べている。Dylan の歌詞は、その表現の美しさか

ら、世相批判をしているものだと解釈しがちだが、本人としては、自分自身が代弁者ではないことを、Masur の論文のインタビューの中で述べている。

[Dylan] told Ed Bradley on *60 Minutes*, “My stuff were songs, you know? They weren’t sermons. If you examine the songs, I don’t believe you’re gonna find anything in there that says that I’m a spokesman for anybody or anything really.” (Masur, 167)

彼は、自分はただ気ままにギターを弾き、そして歌詞を書いているだけだと2007年時点でも述べている。受賞した2016年でも、その信念だけは変わっていないことが伺える。

Detail of accept Nobel Literature Prize

ノーベル賞の受賞が確定していた2016年12月、ノーベルアカデミーとDylan 本人との連絡はしばらく音信不通状態であった。その状態が5か月弱続き、2017年の4月に受け取ることになった。この音信不通の間、ディランは日本にいたとされる。本人が受賞のことを知って、「想像したり、予想することができなかった」と驚いている様子だった。(cinemacafe.net, 2017. 3.31 記事)

Chapter 2 : ディランの歌詞の表現

1. Dylan’s Lyric Expression

ボブ・ディランの歌詞の表現について、当の本人は何の理由もなく、何もメッセージなんてない、と述べている (Masur, 167)。彼自身は、楽曲は説教のようなものでもなく、誰かの代弁者としてなっているものではない、と主張している。そのディランの歌詞を詩作家の視点で評価しているのが、詩人の Christopher Ricks である。しかし、彼の批評は、時系列や、コンテキストを無視して考えられている。

ただ、ディラン自身の自分に対する表現は定まっておらず、自らを詩人だと

称し、ブランコ曲芸師のようだ、とも言っている。

リックスが注目したのは、“sin”, “love”, “road”, “dream”,そして“sex”の単語がボブ・ディランの公式サイトでヒットした数、そして“The Lonesome Death of Hattie Carroll”という楽曲の歌詞である。

まず、前者の公式サイトでの単語のヒット数に関しては、Masur はこう述べている。

Ricks spends too little space justifying his approach. (…) To be sure, the topic is vague enough that sin fits any number of songs, but do so love, escape, and identity. (…) Of course a lyrics search has hits limitations. (Masur, 167-168)

実際に検索してみると、この論文の書かれた2007年当時以降、“love”は184、“road”は78に増えている。一方で、“sex”は相変わらず一つであり、“sin”も12から13に増えただけで、あまり変化はない。Masur氏の言うとおり、ただ単語を調べるだけでは本質がわからない、ということは実際に検索してみても分かった。そして、調べた結果は同時に、ディランの歌詞の中で間接的な表現の歌詞が多いことも意味している。検索結果で一件しかヒットしなかった“sex”という表現は、直接文字に表している楽曲はないが、この単語をほのめかす曲はいくつもあるとMasur氏は述べている。彼の代表曲の歌詞の意味を調べてみると、間接的な批判がある楽曲が多くあることが分かる。

Ricksが分析した楽曲、“The Lonesome Death of Hattie Carroll”は、実際に1963年に起こった、罪のない黒人の女性を裕福な白人の男性が殺害した事件を元に描かれている。リックスは、この歌詞について、後半ほど長くなっていくのは、犯人が裁判で「6か月の禁固刑」と判決され、保釈金によって釈放され、その先までの出来事を見ていく時間の流れだと分析している。

この曲そのものは事実をありのままに語った物語調になっている。

同じ論文の中で、Larry SmithはDylanの背景や本人のコメントに沿って、分析し、Mike Marquseeは時代背景から切り離せないとして、時代背景の面

も含めて分析している。

Connecting his vast knowledge of Dylan's music to some of the key civil rights moments of the decade, and offering a reading that is informed by a sensible use of theory as well as his own political beliefs, Marqusee accomplishes the near impossible: he gets us to rethink Dylan. (Masur, 170)

Highway 61 Revisited のアルバム、そして “Like A Rolling Stone” の楽曲が発表された当時、アメリカではちょうど公民権運動がおこった時期であり、彼の独自の政治的な信念があったのではないかと述べている。Dylan 本人が多少なりともその出来事の影響を受けているのは “Like A Rolling Stone” のみならず、その当時作られた他の楽曲に対しても同様なことが言えるだろう。しかし、Dylan 本人が「自分は政治的な代弁者でもなんでもない」と述べていることを鑑みると彼が独自の政治的信念を持っていたとは断定できない。

2. Indirect Expression in Dylan's Lyrics

ディランの歌詞の表現を、実際に楽曲を用いながら見ていく。この論文で取り扱うのは “Like A Rolling Stone” である。そして、この楽曲は Marqusee が時代背景を含めて分析した楽曲の一つで、彼の分析を参考にしながら論じていきたい。

Once upon a time you dressed so fine
Threw the bums a dime in your prime, didn't you?
People call say 'beware doll, you're bound to fall'
You thought they were all kidding you
You used to laugh about
Everybody that was hanging out
Now you don't talk so loud
Now you don't seem so proud

About having to be scrounging your next meal

How does it feel, how does it feel?

To be without a home

Like a complete unknown, like a rolling stone

("Like A Rolling Stone", Bob Dylan, Highway 61 Revisited, 1965)

ある時君は着飾っていたね

君の青春に浮浪者の晩餐に投げ込まれた、そうじゃないのかい

人々はこう言うだろう、「人形に気をつけろ、倒れてくる」

彼らは全員君をからかっていると考えるだろう

君がかつて笑ったものを

みんながつまびらかにしている

今そんなに大きな声で話せない

今そんなに誇りを持っているようには見えない

どんなふうに感じているんだい？

帰る場所がなくなって

知らないところで、転がる石のように

この歌詞を訳してみて、明るい曲調と、誰かに話すような語り口の歌い方が歌詞の皮肉な部分を包み込むような印象があると感じた。この楽曲が多くのアーティストの楽曲に影響を与えているのである。Musur の *Famous Long Ago* の中で、Bruce Springsteen は、ディランがいなければ、Beatles の楽曲や、Marvin Gaye の楽曲もなかっただろう、と言っている。

As Springsteen put it in his speech inducting Dylan into the Rock 'n' Roll

Hall of Fame, "without Bob, the Beatles wouldn't have made *Sgt. Peppers*, the Beach Boys would not have made *Pet Sounds*, the Sex Pistols wouldn't have made 'God Save the Queen,' U2 wouldn't have done 'Pride in the Name of Love,' Marvin Gaye wouldn't have done 'What's Going On?,' the Count Five would not have done 'Psychotic Reaction,' [and] Grandmaster Flash might not have done 'The Message.' (Masur, 173)

それぞれの楽曲の歌詞の内容や、楽曲の雰囲気の一部が似通っているものもある。中には世相批判を直接的な表現でしている楽曲もある。過激なアーティストから穏健派なアーティストまで、様々な部分で影響を与えた曲といっても過言ではない。

ディラン本人は意識していないものの、社会に対するメッセージ性のある歌詞を描くアーティストが多くなったのは、ディランの影響が大きいということが言える。

“Like A Rolling Stone” の歌詞は物語のように描かれており、これは彼がアメリカの文学に親しんでいたことが伺える。Marcus の著書の中では下記のように論じられている。

また、Polizzotti はアルバムのジャケットの写真から、“Like A Rolling Stone” の楽曲も含まれている、Highway 61 Revisited のアルバムを分析し、そして音楽の音の観点からも分析した。Masur はジャケットの写真から楽曲の分析をするのには限界があると述べている。

Polizzotti の研究の中では Dylan 本人の意見に沿って、音楽として分析したことが大きいだろう。彼はスタジオでの同じ楽曲の様々な録音について分析した。それによると、“Like A Rolling Stone” がワルツの曲調で演奏されていた録音もあった。彼は自分の思うままに歌詞を書き、そして明るい曲調で歌を伝えようとしていたのではないかと考えられる。

3. Context of Songwriting

Dylan の活躍した 1960 年代は、キング牧師らが主導した公民権運動や、冷戦の最中で発生したベトナム戦争が起こった時代である。60 年代になるまで、時代を動かそうという風潮はあまり目立つものではなかったが、公民権運動など、平等な世の中にしていく動きが大きくなってきた。そしてこの時代は第二次世界大戦後の東西冷戦の時代であり、世界中の各国で代理戦争が行われた。

その一つ、アメリカが初めて敗北した戦争と言われているのがベトナム戦争である。1969 年から始まり、70 年代に入ると、戦況は泥沼化していった。この実態が明らかになった結果、ベトナム戦争に対する反戦運動がさらに活発になった。

Dylan は公民権運動がもっとも活発であった 1960 年代に "The Lonesome Death of Hattie Carroll" など、現実起きた事件をありのままに物語のように語る楽曲も多く作っている。同じく 60 年代には、代表曲ともなる、"Blowing in the Wind" は表現が間接的ではあるものの、楽曲を生んだ時代背景と照らし合わせてみると一致する部分がある。

Masur の論文の中で取り上げられている、Mike Marqusee の意見では、時代と音楽は切り離せないものだと述べている。

What makes Wicked Messenger so good is that Marqusee is able simultaneously to focus on Dylan's development while elucidating the links between the times and songs. Indeed, the two, he shows us, inseparable. (Masur, 171)

Dylan 本人は自分の気分で曲を描いたのだと主張しているが、やはり描かれた背景を含めて考えると時代とはそう簡単に切り離せるものではないだろう。そして歌詞だけではなく、曲調など、音楽を構成するすべての要素が時代と関連しているのではないか。

Chapter 3: Bob Dylan の歌詞が及ぼした影響とは

1. Bruce Springsteen

第二の Bob Dylan と呼ばれた人物で、1973 年にストリートバンドを結成してデビューする。1975 年の最初のシングルアルバムの楽曲、“Born to Run” がアメリカのヒットチャートのトップスリーに入る。その他、1984 年に出された楽曲、“Born In The USA” が有名である。また、1970 年代、80 年代のみならず、2000 年代にもヒットアルバムを多く出しており、2007 年のアルバム、Magic の “Radio Nowhere” はグラミー賞の最優秀ロック楽曲賞を受賞している。

アメリカでは “Boss” の愛称で呼ばれるほど有名な人物である。冒頭で「第二の Dylan」と紹介したが、“New Dylan” と言っている文献もあり、彼が Dylan を超える人物なのか否かは文献によって異なる表現がなされている為、明確になっていない。

Bruce Springsteen の楽曲の中で、最もディランの影響が色濃くある楽曲は、“Born to Run” である。本人も Masur の論文の中で述べているが、この楽曲は 2 章で取り上げた、“Like A Rolling Stone” をもとに考えられている。

In the day we sweat it out on the streets of a runaway American dream
At night we ride through the mansions of glory in suicide machines
Sprung from cages out on highway nine,
Chrome wheeled, fuel injected, and steppin' out over the line
H-Oh, Baby this town rips the bones from your back
It's a death trap, it's a suicide rap
We gotta get out while we're young
'Cause tramps like us, baby we were born to run

Yes, girl we were

(Born To Run (1975) / Bruce Springsteen)

アメリカンドリームが駆け抜ける通りで汗をかき
その夜 偉大な自殺する機械のある邸宅を走り抜け
檻から跳ね上がり、9 番の高速へ行く
クロムのホイールに、燃料は注入され、線の外へと出ていく
ああ、この町は背中から骨を引き裂いている
死の罠であり、自殺の罠であり、
まだ若いうちに捨て去るべきだ
トランプは私たちのようだ、走るために生まれているのだから。

君よ、私たちはここにいる

この楽曲は歌い方が Dylan の 'Like A Rolling Stone' と似ている。曲調もとても明るいという点から、Springsteen がこの楽曲に Dylan の影響を色濃くとらえていたことがわかる。彼の歌詞は物語調であり、更にその歌詞を Dylan と同じように語り口調に近い形で歌っている。彼自身が自分の楽曲含めて、Dylan の "Like A Rolling Stone" がなければ、多くの有名な楽曲が生まれなかったと主張していることは間違いないと考えられる。

2. Bon Jovi

1983 年にデビューし、現在まで世界で活躍し続けているバンドのうちの一つである。1986 年に発売されたアルバム、*Slippery When Wet* (1986) の中で、"You Give Love A Bad Name", "Livin' On A Prayer" が主にヒットした楽曲で

ある。最近では2000年の*Crush*のアルバム内の楽曲、“It’s My Life”がよく日本のテレビのBGMの楽曲として聞かれる。

Bon Jovi は2007年に“Who Says You Can’t Go Home”(*Have A Nice Day*,2005)の楽曲でグラミー賞をカントリーミュージック部門で受賞する。

バンドの楽曲を製作しているボーカルのJon Bon Joviは、Bruce Springsteenとも関わりの深い人物であり、ライブで共演することも多い。

Bon Joviはデビューの当初から、「若者の見本となる」という信念をもって活動をし続けている。その為、楽曲全体の三分の二程度が世相を見た楽曲と言ってもいいだろう(東郷,137)。80年代～90年代にかけての楽曲にも、時代の世相を見るような歌詞が含まれているが、もっとも顕著に表れるようになったのは、2005年のアルバム、*Have A Nice Day* からだろうと考えられる。その中でも2009年のアルバム、*The Circle*のタイトルナンバー、“We Weren’t Born To Follow”はアメリカの大統領選で、オバマ大統領が当選した時期にかけて、期待感を込めて作られたものである。彼らの最新のアルバム、*This House Is Not For Sale* (2016)の楽曲の多くは、Dylanの影響を受けた楽曲が多いとインタビューで話している。Bon Joviの楽曲は批判的な目で見ているのではなく、希望を与えるような印象の歌詞を書いている。それは自らを語る楽曲であろうと、世間に対する楽曲であろうと変わらないスタンスである。

Dylanの影響を受けたアルバム、*This House Is Not For Sale* (2016)の楽曲の中でアルバムタイトルとなった曲を分析していく。

These four walls have a got a story to tell
The door is off the hinges, there’s no wish in the well
Outside the sky is coal black and the streets are on fire
The picture windows cracked and there’s no where to run
I know, I know
This house is not for sale

I set each stone and I hammered each nail
This house is not for sale
Where memories live and the dream don't fail
This house is not for sale
Coming home
I'm coming home

(“This House Is Not For Sale,” Bon Jovi, *This House Is Not For Sale*,
2016)

4つの壁は何かを物語っている
扉に蝶番はなく、井戸には望みもない
空は石炭のように暗く、通りには火がある
絵の額縁は砕け、どこにも逃げ場がない
知っているとも
この家が売り物ではないことは

石を並べて釘を打ち付ける
この家は売りものじゃない
どこかにある生活の記憶と夢は欠けない
この家は売り物じゃない
ただいま
ただいま

この楽曲を分析してみると、物語調で、Dylan の歌詞のように間接的な表現であることが理解できる。楽曲そのものも明るい曲調であり、Dylan の作る曲と似通っている部分がある。また、Bruce Springsteen の “Born To Run” と比較してみると、Springsteen からも影響を受けていることは明らかである。彼

は Dylan のみならず、Dylan の影響を強く受けたアーティストたちの楽曲のスタイルを取り込んでいると考えられる。

3. Keisuke Kuwata

1976 年、青山学院大学時代にサザンオールスターズとしてバンドを結成。1986 年ごろにはソロアーティストとしての活動も始める。以降、現在まで両立し続けている人物である。代表曲はソロとしては「波乗りジョニー」(2002)、「白い恋人たち」(2002)、サザンオールスターズとしては、「TSUNAMI」(2004)、「ピースとハイライト」(2015) などが挙げられる。

彼の製作する楽曲は Dylan のみならず、様々な洋楽のアーティストの影響を受けていると記事の中で述べている。

10 代の頃からありとあらゆる洋楽を聴き漁り、本人いわく「咀嚼じゃなく丸呑み」するように採り入れてきた桑田佳祐。作り手という意識よりもいちリスナーとして楽しんで真似してみるような無邪気な目線が根底にあるからこそ、闇雲に新しい音楽を摂取しなくても、この人の音楽はいつまでも鮮度の高い状態にあるのだろう。(岡村, bounce 329 号 (2011))

彼の楽曲の中で Dylan の楽曲に似通っていると印象が深いのは「ピースとハイライト」の楽曲だと考える。楽曲を聞いてみて、明るく歌っているようで、実は世間に対する皮肉も混じっている歌詞が印象に残ったからだ。

記事の中でも述べている通り、彼以外のアーティストにも当てはまることだが、Dylan の影響のみではない、というところに注意をしておきたい。しかし、彼の作った楽曲を見てみると、Dylan の影響が少なからずあることが分かる。以下の歌詞の引用で説明しよう。

何気なく観たニュースで
お隣の人が怒ってた
今までどんなに対話しても
それぞれの主張は変わらない

教科書は現代史を
やる前に時間切れ
そこが一番知りたいのに
何でそうなっちゃうの？

希望の苗を植えていこうよ
地上に愛を育てようよ
未来に平和の花が咲くまでは…憂鬱
絵空事かな？お伽話かな？
互いの幸せ願うことなど
（“ピースとハイライト”サザンオールスターズ,「葡萄」, 2015）

楽曲を聞いて、歌詞も見てみると、Dylan と同じように明るく歌いながら、言いたいことを言っている歌詞であると理解できる。彼が影響を受けているアーティストは必ずしも Dylan だけという訳ではないが、記事で岡村が述べていた、「一リスナーとして、咀嚼ではなく丸呑みする」表現方法が歌詞の中に現れていると考えられる。

Conclusion

彼がノーベル文学賞を受賞した理由は、彼の制作した歌詞が、後のアーティストに与えた影響が大きいことが要因ではないかと考える。楽曲の作り方、歌詞の作り方など、影響されたものは異なるが、それでもディランの残した功績は大きい。しかし、本人も言うように、歌詞を詩としてとらえるのではなく、曲全体としてとらえなければ、楽曲の音楽性や意味合いを全て理解することにはならないのである。さらに、時代背景も含めて考えると、歌詞の中にメッセージ性があったからこそ、その影響を受けたアーティストも多いのではないか。

参考文献

- Billy Falcon, Jon Bon Jovi, John Shanks 2016 Bon Jovi “This house is not for sale” This House Is Not For Sale 2016
- Bob Dylan, 1965 Bob Dylan “Like A Rolling Stone” Highway 61 Revisited 1965
- Bruce Springsteen, 1975 Bruce Springsteen “Born To Run” Born To Run 1975
- Heatley, Michael. “The Ultimate Encyclopedia of Rock.” Harper Perennial, 1994
- Masur, Louis P. “Famous Long Ago’: Bob Dylan Revisited. ”*American Quarterly*, vol. 59, no. 1, 2007, pp. 165-177. JSTOR, JSTOR, www.jstor.org/stable/40068429.
- 麻里絵, 南「ボブ・ディラン、やっとなーベル賞の受賞講演「でも、歌と文学は違う」」
https://m.huffingtonpost.jp/2017/06/05/bob-dylan_n_16962408.html
- 桑田佳祐, “ピースとハイライト”, サザンオールスターズ, 葡萄, 2015,
- 大助, 川崎 2016, 「ボブ・ディランがノーベル文学賞をとった「当然の理由」」講談社, 現代ビジネス
<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/49958?page=4>
- かおる子, 東郷, 2007, 「わが青春のロック黄金狂時代ービートルズからボン・ジョヴィまでー」角川 ss コミュニケーションズ.
- ボブ・ディラン、ついにノーベル賞受け取りへ 2018.11.07 閲覧
<https://www.cinemacafe.net/article/2017/03/31/48254.html>